

令和4年度「ふるさと創造大学」提言

## 持続可能なまちづくり(クリアグリーン TAKA)推進のために

今年度の「ふるさと創造大学」は、メインテーマ「暮らしの創造と交流」のもと、多可町内及び北はりま探索（歴史・文化・産業）、中学生とのコラボ学習、県外研修、健康維持・増進、地域づくり、体験創作などの多岐にわたる講座を開催し、町民一人ひとりが、「学び・発見・感動・そしてつながる」場づくりと豊かで充実した生活の創造に努めて参りました。

平和・交流・共生の様々な歴史物語が詰まった「青い眼の人形メリーの旅」のコラボ学習講座、非戦は人類普遍の約束でありたいと強く念じた「舞鶴引揚記念館（ユネスコ世界記憶遺産）・鶉野飛行場跡」の巡見講座、それらは、悲惨なウクライナ戦禍の今日的情報と相まって、講座生一人ひとりが改めて、平和の尊さを実生活に照らし合わせて考える機会となりました。

「ひょうご出前環境教室」～食品ロスとプラごみから気づくSDGsと豊かな暮らし～講座では、“もったいない”は、世界で評価される考え方であり、処分や環境を意識して、本当に必要なモノを購入する姿勢が大切、「買い物は授業であり、生き方である」ことを再認識しました。また、「パナソニックエコテクノロジーセンター」見学では、使用済み家電をリサイクル。貴重な資源をリサイクル。貴重な資源を循環させ、「商品から商品へ」のリサイクルとごみの減量に取り組んでいる工場で、作業工程を実際に目にし、家電製品を利活用している日常を振り返り、資源循環型モノづくりの重要性を再確認する時間となりました。さらに、「多可町産ひのきでつくる木工細工」講座では、どこか懐かしく安心感がある、やさしい香りの、ひのきのカンナくずを利用したリースづくりを体験しました。

そして、「多可町地域おこし協力隊ってナニ？～みなさんとつながりたい・この町が好きだから～」の講座では、7人の協力隊員をゲストティーチャーに迎え、さまざまな部署で多可町を支え、将来的展望を持って、エネルギーに活動し、素敵なまちづくりに貢献している若者の声を聴くことができました。

本町に於いては、まちづくり総合計画の重点プロジェクトにSDGsを組み込むとともに、それぞれの政策におけるゴールを示し、計画の実行を通して持続可能な多可町を目指しています。また、2021年度には、役場職員向けのSDGs研修会や住民を対象としたSDGs講演会、多可町SDGsアドバイザーの招聘、公益社団法人Knotsとの官民連携により、多可町の住民幸福度の向上と持続可能な地域社会の発展、地域経済の活性化を図ることを目的とした、SDGs事業等に関する包括連携協定をも締結しました。

そのようなプロセスを踏みながら、本町は、経済・社会・環境の分野で新しい価値を創出し、持続可能な発展を実現するポテンシャルの高い地域として、「SDGs未来都市」に選定（2022年）されました。（全国：154市町、兵庫県：5市町が選定されている。2022年現在）その推進に向け、『クリアグリーン TAKA』構想を立ち上げ、産官学金労言士と連携し、官民一体となって、豊かな発想で新たな価値を創出するプラットフォームを設定し、住民参加型のまちづくりに努めようとしています。

今年度の「ふるさと創造大学」に於いて、関心度が高かったSDGs関連及び地域おこし協力隊との交流講座から、感想・意見・考えを総合的に集約し、多可町がめざす持続可能なまちづくり「クリアグリーン TAKA」構想の推進を支援する観点から、次の提言をいたします。

## 〔提言①〕「SDGs暮らしのチェック票」&「SDGs暮らしのアプリ」（ターゲット目標12-5）

SDGs 推進の制度設計として、その達成に意欲的に取り組む事業者または個人を登録する「多可町 SDGs 登録制度」が創設されています。町の SDGs を推進する先導者としての役割が期待されま  
す。しかしながら、SDGs を「持続可能なまちづくりの羅針盤」として位置づけたい行政と住民と  
の間には意識の隔たりがあり、協働して推進していくための合意形成に至っていないのが現状で  
す。行政部局の本気度を示すためにも、「SDGs 未来都市宣言」の内容を様々な媒体（広報・たか  
TV・ポスターなど）を通してアピールし、周知・啓発活動を行い、町民サイドの談論風発の輪を広  
げていくべきと考えます。

一方、生活者の目線では、「誰かがやってくれる」や「私には関係ない」など他人ごととせず、自  
分ごととして考え、既にゴミの分別、マイバック、詰め替え商品の購入など、SDGs（消費・生産、  
資源・エネルギーなど）を意識した生活を営んでいる町民もいます。更に多くの町民（子ども～高  
齢者）に SDGs 活動を身近に意識してもらうため、貢献度や達成度が“見える化”された「SDGs 暮  
らしのチェック票」を作成・配布したり、「SDGs 暮らしのアプリ」を立ち上げ、Web ページに公  
開してはどうでしょうか。住民一人ひとりの意識の発揚とともに、身近な実践過程を通じて SDGs  
推進活動にも貢献でき、住民参加型の「クリアグリーン TAKA」構想実現に向けての一助になると  
考えます。

### <チェック指標例>

- ・節水する ・詰め替え商品の購入・紙の無駄遣いを減らす・オンライン決済サービスの利用
- ・環境に配慮した製品やサービスを利用する・冷房や暖房の設定温度を意識する・地元の食材  
を購入する ・マイバッグやマイボトルを持ち歩く・使用しなくなったものを寄付する……

## 〔提言②〕 不要・廃棄物品を地域循環させる“もったいない館”の創設(ターゲット目標12-3・4・5)

SDGs の理念の一つは、「誰ひとり、取り残さない」ことだとされます。障害、ジェンダー、テク  
ノロジーに関する習熟度、宗教や言語の違い…といった人々の持つ多様性を認め、豊かで、愛情に  
満ちた持続可能な社会の構築に向けた強い決意が読み取れます。

私たちの消費生活のスタイルに置き換えれば、「何一つ無駄にしない」ということが、持続可能な  
生活に必要な不可欠な要素と言えます。まさに、ふるさと創造大の SDGs 講座や住民を対象とした  
SDGs 講演会で語られた、日本が世界に誇る「限られた資源・資産の有効活用」という意味での  
「MOTTAINAI」文化です。古来より、日本人が日常生活の中で、自然に実践してきた環境維持活  
動“もったいない”を再認識し、今こそ生活に生かす時期に来ています。移住・移転や改築・家屋  
の取り壊し、各世帯の断捨離からの不要物や廃棄物の物品がありふれています。それらの物品を地  
域循環させ、有効利用するために※“もったいない館”を創設してはどうでしょうか。各区のプラザ  
（或いは遊休の公共施設）を活用し、①衣料品館、②日常生活品・雑貨館、③介護・ベビー用品  
館、④フードドライブの集積場を設け、町民が物品交換したり、安価で購入・借用できる、また、  
一定期間を過ぎた物品は、必要としている諸外国や適時災害地におくる、といった仕組みを整え、  
また、多可町の Web サイト（オフィシャルサイト）にページをつくり、情報発信（どこに何があ  
るか）をして、必要なモノが、必要な人に届く。まさに、住民参加による循環型の SDGs の消費生  
活が実現できると考えます。

（※西脇・多可（新）ゴミ処理施設のリサイクルプラザ（現みどり園）とは、別システムで稼働）

### 〔提言③〕「ふるさと創造サテライト大学(若者塾)」の創設を(ターゲット目標4-7)

これまで、ふるさと創造大学では、「農業に生きる」～次代を担う若手就農者～や「播州織をつなぐ」～産地の未来は僕たちが創る(播州織ネクストジャパン)～などの講座を通じて、町内の若い世代との交流を続けてきました。そして今年度の「多可町地域おこし協力隊」の講演・交流でも、魅力的なまちづくりへの取り組みや将来的展望をもって、明日を切り拓く逞しい若者の姿を垣間見ることが出来ました。町内には、彼らと同様にこのまちを愛し、未来志向の中で繋がり、心地よい空間(地域)を創出したいと願う若者世代が多くいます。

「クリアグリーンTAKA」構想では、「地域の課題に向き合うことができるデザイン思考を持った住民を育て、やがてこの人材は、地域を牽引する新たな担い手となる。」と謳っています。持続可能なまちづくり総合戦略においても、「…新たな価値の創造、みらいへ(次世代)の投資」が指摘されています。前年の議会改革シンポジウムでも地域を担う若者との意見交換が実施されていました。

SDGsを「持続可能なまちづくりの羅針盤」とするならば、次世代を担う若者世代こそが、「多可町の生きた羅針盤」でもあります。未来を担う同世代の若者が、“集い、楽しみ、繋がり、学び合う。時に協働して課題解決にあたり、必要に応じて町政への提言(意見集約)をする”—そんな「ふるさと創造サテライト大学(若者塾)」の創設をお願いできないでしょうか。

若者世代に学びの場を保障すると共に、生涯学習の機会も促進できます。合わせて、従前のクリアグリーン構想で期待される「明日の多可町をデザインする、地域を牽引する新たな担い手となる」若者を育成することが出来ると思います。現ふるさと創造大学には、運営や講座内容についてのノウハウがあり、その設立に際しては、十分なサポートが出来ると思います。

### 〔お願い〕“加西・多可健幸アプリ”に「ふるさと創造大」講座をポイント付与対象に!

「ふるさと創造大学」は、町民の豊かで潤いのある健康的な生活の創造を目的に、町内外の歴史・文化探訪、健康維持と増進のための活動、創作活動や地域づくりなど、町民のニーズに応じた多岐にわたる生涯学習講座を実施しています。今後もこの「加西・多可健幸アプリ」事業の趣旨を理解した学習プログラムを実施し、ユーザー登録者数を増やすことや健康増進事業に努めて参りますので、是非、継続して、本大学が実施する講座をポイント付与対象にして頂きますようお願いいたします。